



# 第2回まちゼミ「伏見講話」レポ

2012/11/25 14:00～16:30

場所：伏見区役所第5会議室

参加者 18名

## テーマ「開発政策と人口からみる伏見の発展」

第2回まちゼミ「伏見講話」11/25(日)の講師は、学生のお二人。

「開発政策からみる伏見の発展」について話をしてくれたのは、立命館大学3回生 <sup>いふじともみ</sup> 居藤智美さん。

「人口からみる伏見の発展」について話をしてくれたのは、京都大学3回生 <sup>くまのたかふみ</sup> 熊野貴文さん。

まず、大学で専攻している「開発」の視点から、居藤さんの出身地である伏見の開発史について5つの特徴に注目した。古代における伏見は渡来人や藤原氏、皇族などとの関係が深く、彼らは伏見を景勝地・別荘地として見ていた。更に、豊臣秀吉が伏見に城を築き、城下町として整備されてゆくと共に、大阪・奈良・京都・大津へ通じる水陸路の交差点として伏見は発展していく。廃城後も、伏見の地は交通の要である宿場町として栄える。伏見の発展には都市の工業化が大きく影響を与えているが、交通網の整備や軍が駐屯したこともその一因だ。居藤さんは伏見における開発・発展の特徴について 1) 元々の道路や機能を有効利用している点 2) 京郊から交通の概要地へ変容 3) 伏見域内格差 この3点について述べ締めくくった。

- 1.伏見の開拓者 渡来人秦氏
- 2.皇族の荘園地
- 3.豊臣秀吉と城下町
- 4.宿場町・街道
- 5.軍の町 商業・交通都市

次に、熊野さんが既存の官庁統計やGISデータを用いて京都市における伏見区の人口の現状を示した。伏見区は広く、少子高齢化の問題は地域によって進行度合いの差が大きい。同じ「郊外」という点から伏見区と桂川右岸地域、向島・醍醐ニュータウンを比較すると、居住者の年齢層に違いが見えてくる。こうした地域的な差異を浮き彫りにすることが、統計的分析の第一歩だ。もちろん、こうした統計情報が当該地域の現状のすべてを物語っているわけではない。肝要なのは、統計を通じて地域の特徴を把握することで、地域コミュニティとそこに暮らす人たちの抱える問題に解決の糸口を与えることだ。熊野さんは、こうした情報を「市民に対して、広く、解りやすいかたちで」提供する必要がある、と語った。

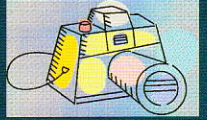


参加者からは熊野さんが使用していた統計データのグラフについて関心を寄せる声が多く、挑戦してみたいと仰る方もいた。フリーディスカッションでは、特に向島ニュータウンにおける高齢化や教育問題の議論が白熱し、高齢者・障害者・外国人・若年層など弱者にとって住みやすい町にしたいという皆さんの思いの強さを実感した。





# 3rd まち歩き Follow Up



## 3rd まち歩き「歴史のまち・伏見を感じる！～城下町から宿場町へ～」写真展

3rd まち歩きでは、AチームとBチームと2つのチームに分かれ、各々、お祭り（神幸祭）のベストショットを1枚、まち歩きで見つけた「伏見の歴史を感じる風景や場所」のベストショット1枚をチーム参加者の総意で選びました。今回、その写真を発表します。（2012/10/7 参加者23名）

### Aチーム “男気”



私の生まれ故郷も秋になると小学生が神輿を担ぐ祭りがあります。そこでは、他にもお囃子を奏で、女性は巫女の姿になる等、地域全体がお祭り一色に染まりました。地域の行事に合わせて小学校も早く終わり、自宅にランドセルを置くとすぐさま法被に着替え、玄関を駆け出し、神輿を皆で担いだことを覚えています。故郷の祭りと御香宮祭とは異なりますが、シャッターを切ったとき、担ぐ人の力強さだけでなく、周りからの声援といった支えもありました。男のみで「むさい」かもしれませんが、男たちの気の強さを表す写真として「男気」とさせて頂きました。写真を通して、故郷の祭りの思い出が走馬灯のように駆け巡りました。

撮影者：眞田 章午さん

### Aチーム “濠川と酒蔵”



夜の酒場に足を運ぶと伏見の地酒でクィっと1杯している人と出くわします。そんなとき「ああ、これこそが伏見の光景だな」と思わずにはられません。「酒蔵」は伏見の代名詞の1つです。しかし、伏見のもう1つの代名詞は「水の歴史」だと思います。酒蔵の中心を流れる濠川、伏見（墨染）インクラインから流れてきた水は静かに酒蔵へ向かっていきます。酒を造るにも「水」は非常に重要であると伴に、水は様々な形で私たちに魅了してくれるものでもあります。伏見は水と近い関係にあるからこそ、水と酒蔵と一緒にフィルムにおさめたかったため、撮影しました。今日も、この写真を肴に1杯をクィっと！

撮影者：眞田 章午さん

## B チーム “心はひとつ御香宮祭礼”



観月橋上で踏切待ちをする御神輿です。近くには月見館も有り、観月橋と月見館と御神輿は昔もそれ程変わることなく、橋を勢いよく渡っていたことでしょう。今は、電車が来たらそれを待つ御神輿。世の中の流れを感じつつも、この後、御神輿が勢いよく担がれ宮入する様子は、皆が神様を喜ばせるために担いでいるんだという気合を感じました。

撮影者：和田野 美久仁さん

## B チーム “三十石船に負けない小廻りのきく十石舟”



弁天橋がかかる川辺に観光用十石舟が繋がれていました。宇治川～淀川を往来していた三十石船に想いをはせ伏見にぴったりの景観としてこの写真を撮りました。

撮影者：金井 深水さん

なお、この弁天橋を北西に少し歩いたところに蓬莱橋があります。蓬莱橋については、今回の写真の撮影者である金井さんより、以下のお話をお聞きすることができました。

「秀吉が京から伏見までの陸路として整備した伏見街道の南の端が、蓬莱橋という説もあると聞いています。」

(金井さん)

大変興味深いお話です。

編集者：谷口



# 私の「イチオシ」カフェ



ふしみゆめひやくしゅう

## ～京都伏見の喫茶 お土産処 伏見夢百衆～



大正時代(1919年)に建てられた **月桂冠の旧本社**社屋  
 おもむきのある重厚な木造の建物を使用した レトロな空間に一  
 歩入ると タイムスリップしたような気分に浸れます。  
 石段を上がり店内に入ると 伏見の名産品や17蔵元の伏見のお  
 酒約**100種類**が ずらりと並ぶお土産コーナーがあります。  
 向かって右手から奥へと続くカフェスペースは それぞれのテー  
 ブルがゆったりと配置され 雰囲気を十分に味わえる贅沢な空間  
 です。

メニューの **水出し珈琲**や **伏水紅茶**などは 伏見のお酒を造る仕込み水を使うこだわりよう。また、17蔵元のお酒を飲み比べ出来るきき酒セット、伏見のお酒を使った**酒カステラ**や **酒饅頭**などスイーツも充実しています。中でもおすすめなのが **清酒アイスクリーム**。濃厚なバニラアイスに 古酒やゆず風味のお酒をかけて一緒にいただきます。バランスもよく相性もバッチリです。伏見を散策されるときの休憩処としておすすめのお店です。きものパスポートの提携店舗です。和装の方はカフェでクーポンの利用が出来ます。また 伏見十石舟三十石船の乗船チケットにもカフェのクーポンがご利用いただけます。お土産の地方発送も出来ます。料金などは直接店頭でお伺いください。(伏見夢百衆オリジナルの日本酒もあります)

### ～お店情報～

住所:京都市伏見区南浜町247 電話:075-623-1360

URL: <http://ameblo.jp/fushimi-yume100shu/>

(平日)10:30～17:00(LO 16:30) (土日祝)10:30～18:00(LO 17:30)

月曜定休(祝日の場合は営業)ただし 4月 5月 10月 11月は 無休。12テーブル(約50席)

2012.11.28 08:19 Wed Copyright Copyright FUSHIMICHELIN フシミシュラン All Right Reserved.

フシミシュランのアドレス: <http://fushimichelin.blog.fc2.com/>

### 第3回まちゼミ「伏見講話」開催!

#### テーマ「商店街と私」

- ◆ 講師: 北澤雅彦氏(伏水きたせ昆布老舗) 安本正子氏(安本茶舗)
- ◆ 1月20日(日) 14:00～16:30 伏見青少年活動センター  
(伏見区役所4階)「レッスンスタジオ」
- ◆ 参加費 500円(茶菓子・資料コピー代) ※要申込み

【編集後記】2号目のまちゼミ通信でした。1号はお陰様で多くの方に手に取って頂き嬉しい限りです。今後もぜひご期待ください。

編集: 伏見歩き隊 tomomi



#### 申し込み先

谷口英明

メール: [t\\_hide314@yahoo.co.jp](mailto:t_hide314@yahoo.co.jp)

電話・fax: 075-603-3595

Facebook: 「伏見歩き隊」で検索!

伏見区区民活動支援採択事業の支援を受けてこの広報誌を作成しました。